

SharePoint® Server 2007

Office Communications Server 2007

株式会社カプコン 様

グローバルレベルの経営改革を促進するため
国内外のグループを横断する統合的な情報基盤を構築

導入の背景

- 新しいマーケットに対する経営判断のスピードを向上させたかった
- グローバル経営推進のためにシステムの標準化、基盤全体の最適化が必要だった

選定理由

- ユーザーがストレスなく活用できる
- 導入事例が豊富で、参考にできるデータが多く安心だった
- ユニアデックスのサポートによるマイクロソフト製品の早期導入実績

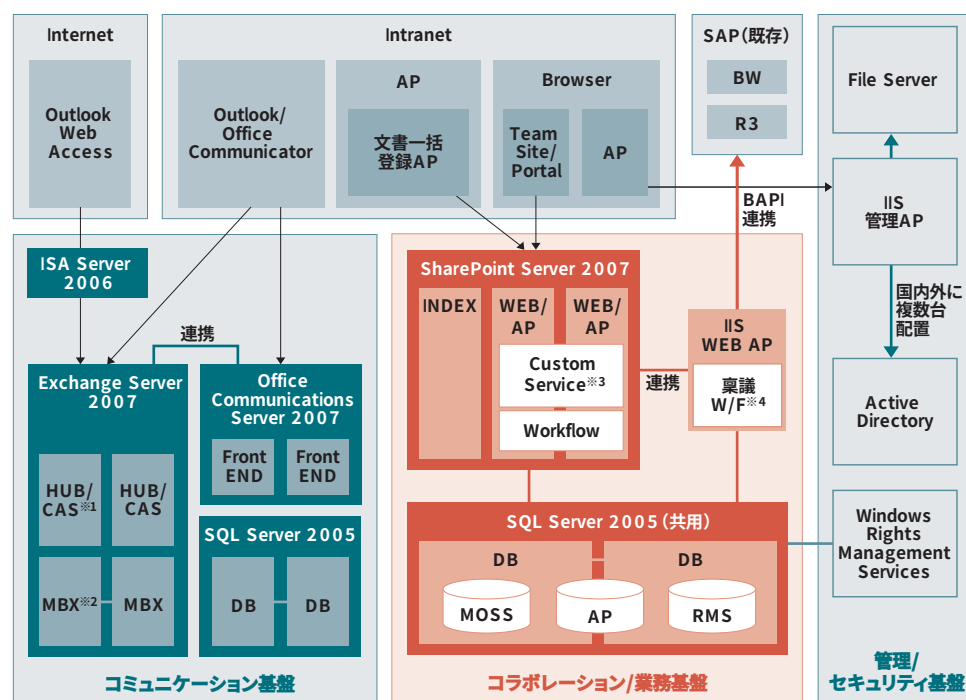
導入の効果

- 徹底した業務分析を実施し、業務フローを整理・改善。企業内文書の管理と検索の効率性・利便性も向上
- MOSSとSAPの連携による業務フロー管理で管理制度を強化
- ツール活用によりコミュニケーションが円滑化

今後の展望

- OCSとIP電話の連携により、より高度なユニファイドコミュニケーション環境の整備を推進
- システムの世界展開によりグローバルコラボレーションのさらなる促進に期待

システム概要図



- ※1 HUB/CAS: Exchange Server 2007 HUB Transport Server/ Client Access Server
 ※2 MBX: Exchange Server 2007 Mail Box Server
 ※3 Custom AP: 弊社開発の文書一括登録 (SPDExplore) WEBサービス、上長検索WEBサービス、連続番号採番WEBサービス…など
 ※4 稟議W/F: 弊社開発のワークフロー稟議システム。BAPIで既存基幹システムである、SAPと連携する

システムの概要

システム名称: OA-COEプロジェクト

システム概要: 『Microsoft® Office SharePoint® Server 2007』『Microsoft® Office Communications Server 2007』『Exchange Server 2007』による統合コラボレーションシステム、グローバルコミュニケーション基盤。

開発期間: 23カ月

USER PROFILE

設立: 1979年5月30日

資本金: 326億26百万円

従業員数: 連結1,506名
単体1,324名
(2008年3月31日現在)

本社所在地: 大阪市中央区内平野町
3丁目1番3号

事業内容: 家庭用テレビゲームソフトの企画・開発・販売、業務用ゲーム機種の企画・開発・製造・販売、アミューズメント施設の運営

株式会社カプコン 様

ワークスタイルの変革を実現するユニアデックスのPowerWorkPlace

日本ユニシスグループでは、『PowerWorkPlace™』というソリューション・コンセプトのもと、グループ各社がもつユニファイド・コミュニケーション（UC）に関するさまざまなソリューションを体系化。さらに、マイクロソフトやシスコシステムズなどとも連携することで、働く人の「場所」「環境」「働き方」に最適な情報活用とコミュニケーション手段を提供し、お客様の生産性を向上するワークスタイルの変革を支援しています。

モバイル端末、IP電話、ネットワークなどの分野で多彩な技術とソリューションをもつユニアデックスでは、グループ企業やパートナー企業とのシナジーを追求し、テレワーク・サテライトオフィスやポータルサイトなどの提案・構築に注力しています。

「コミュニケーション、コラボレーション環境の充実に向け今後も新たな提案を期待します。」

株式会社カプコン
井上 恵氏
IT統括付 情報システム室長



「お客様視点でのシステム開発」をモットーにさらなる信頼獲得をめざします。」

ユニアデックス株式会社
細川 巧氏
関西システムサービス統括部
サービスインテグレーション部 部長



導入の背景

全社的な構造改革の一環として情報システムの統一化を推進

国内はもとより欧米、アジア市場でも有数のゲームソフトメーカーとしての地位を確立しているカプコン様。同社が主力とするゲーム市場はいまや海外が80%以上を占め、その成長率も高い伸びを示しています。「そうした動向を捉えて、海外での売上比率を拡大していくことを中期目標としています」と語るのは、同社常務執行役員の野呂良材氏だ。

そこで同社では、2002年度から全社的な構造改革を推進。2006年度からグループ全体の情報システムの統一化に着手した。

選定理由

導入実績の豊富さやアプリケーションとの親和性からマイクロソフト製品を選択

同社では、情報システムの統一化にあたって、グローバルな業務基盤の確立、グループ間のコミュニケーション基盤の確立などの基本方針を定め、ソフトウェアを比較検討。「SharePoint Server 2007 (MOSS)」「Office Communications Server 2007 (OCS)」など、マイクロソフトの製品群の使用を決めた。「ユーザーにとってもストレスなく活用できますし、スムーズなシステム連携も期待できる、また、海外のグループ会社ではMicrosoft Exchange ServerやActive Directoryが使われていて、グローバルレベルでの使用に耐えるというのが、その理由でした」と語るのは、システム導入推進を担当した同社情報システム室長の井上恵氏だ。

そして、マイクロソフトから推奨されたユニアデックスをパートナーとして指名し、カプコン様とユニアデックスとデータセンターおよびシステム運用を担当するベニックスソリューションの3社の協力体制のもとでプロジェクトがスタートした。

導入の効果

MOSSと基幹システムとの連携で最適な「稟議プロセス管理」を実現

2007年8月からは、ワークフローシステムなどの要件定義が開始された。ワークフローシステムは当初、既存システムの機能をMOSS上に置き換えていくことを考えていたが、要件定義は思いのほか大変なものになったという。「『業務フローを見直すべきではないか』という意見がユーザーからあがり、ユニアデックスにも協力してもらいながら徹底した業務分析を行い、フローの不明確な部分や問題点を整理・改善していくことになりました」と話すのは、今回のプロジェクト全体を統括した同社IT統括の井辻敦雄氏だ。

なかでも、もっとも注力したのが「社内稟議」に関するフローだった。稟議プロセスには極めて複雑なものがあつたが、業務プロセスの分析から要件を抽出し、MOSSシステム上に忠実に反映させていった。さらに、稟議の遅延通知機能や進捗確認機能を付加したほか、稟議システムのデータは、帳票としてPDFに出力し、MOSSに登録して管理・検索できるようにした。加えて、稟議システムとSAPをBAPIでリアルタイムに連携。経営計画と実績を対比する「予実管理」を自動的に行える機能も追加した。

今後の展望

各部門での「使いこなし」を推進、構造改革につなげる

こうして、2008年9月に新しい情報システムが本格稼働。文書管理やワークフロー管理などの業務・コラボレーション基盤、メールやWeb会議といったコミュニケーション基盤が整い、経営会議の様子も大きく様変わりしたという。世界各地の経営トップや役員同士が、パソコンを使ってWeb会議を簡単に開催したり、会議中に最新の情報や資料を検索・閲覧することも容易になり、意思決定が今後スピーディになっていくことを期待する。

今後、同社では、各部門の通常業務のなかにMOSSやOCSの活用を浸透・定着させるとともに、グループ間のコミュニケーション基盤もさらに充実させ、一層の構造改革を進めていくことをめざしている。こうした要望を受けて、ユニアデックスは、『PowerWorkPlace™』を活用した新しいコミュニケーション環境の提案に取り組んでいる。

日本ユニシス株式会社

本社 東京都江東区豊洲1-1-1
電話 03-5546-4111 (大代表)
URL <http://www.unisys.co.jp/>
E-mail dotnet-box@unisys.co.jp

事例インタビューの全文はこちら

URL <http://www.unisys.co.jp/dotnet/casestudy.html>